

芦別市における景気動向調査報告書

《令和5年第Ⅳ四半期》

芦別商工会議所経済地域振興委員会

I. 調査要領

1. 調査時点及び調査対象期間

- (1) 調査時点 令和6年1月1日
- (2) 調査対象期間 令和5年10月から12月期実績及び令和6年1月から12月期の見通しについて調査した。

2. 調査対象及び調査方法

- (1) 調査対象
『令和5年度特定商工業者名簿』に掲載されている事業者の中から、製造業20事業者、建設業20事業者、卸売業10事業者、小売業30事業者、サービス業20事業者の5業種100事業者を対象とした。
- (2) 調査方法
調査対象に対して調査票をFAXで送付し、FAXにより回答をいただいた。

3. 業種別回答状況（事業者数）

業種	事業者数	対象事業者数	回答事業者数	回答率
製造業		20 事業者	12 事業者	60.0 %
建設業		20 事業者	7 事業者	35.0 %
卸売業		10 事業者	3 事業者	30.0 %
小売業		30 事業者	11 事業者	36.7 %
サービス業		20 事業者	7 事業者	35.0 %
合計		100 事業者	40 事業者	40.0 %

※ 本調査報告書中の「D・I」値 とある記号は、ディフュージョン・インデックス（景気動向指数）の略で、各調査項目についての増加（好転・上昇）企業割合から減少（悪化・低下）企業割合を差引いた値（景気動向指数）を示す。

Ⅱ. 概況 《全体の動き》

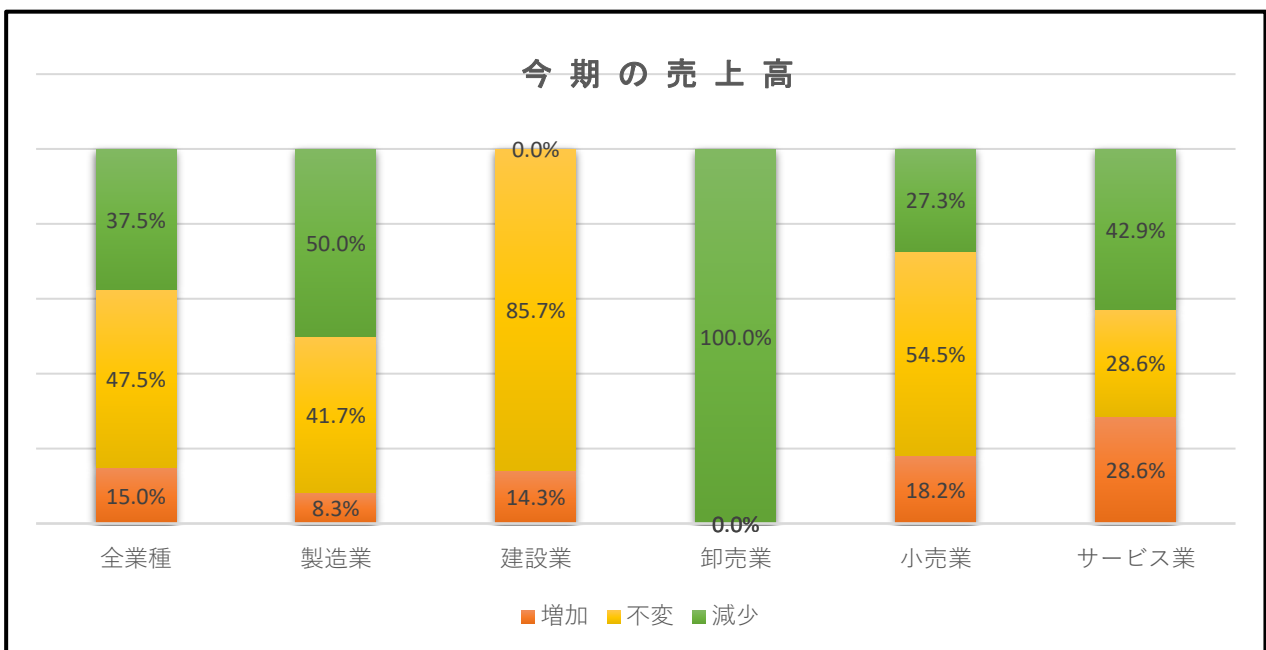
令和5年第Ⅳ四半期（10月～12月）の芦別市における売上高（製造業は生産高、建設業は工事完成は、全業種で見ると前年同期比で「増加した」と答えた事業者の割合が15.0%、「減少した」と答えた事業者の割合が37.5%で、「増加」から「減少」を差し引いたD・I値は△22.5となっております。来期（1月～3月）売上高の見通しを全業種で見ると、「増加する」と答えた事業者の割合が0.0%、「減少する」と答えた事業者の割合が52.5%で、D・I値は△52.5となりました。

また、経営課題としては、全業種において「経費の増加」、「人材・人材不足」、「顧客需要の停滞・変化への対応」、「事業設備の不足・老朽化」、「取引業者の廃業・倒産・閉鎖」、「後継者がいない」といった回答があり、今回1位となった回答は「経費の増加」と「人材・人材不足」であることから、引き続き物価高騰の影響と人手不足の深刻さがうかがわれます。

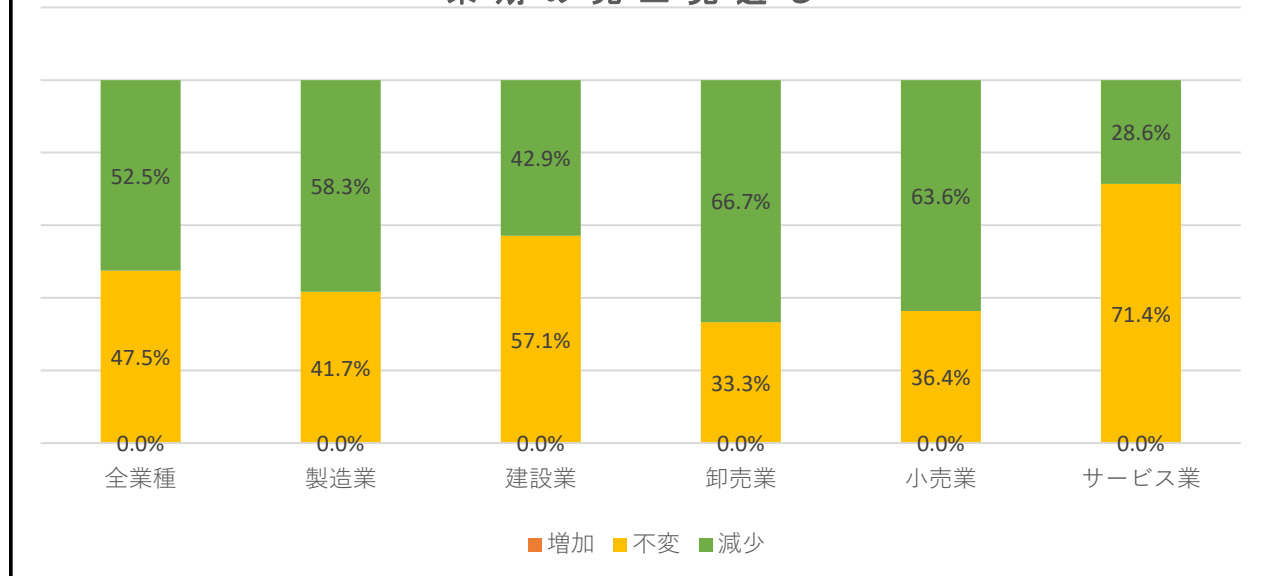
業種別D・I《売上高》

売上高 (%)	今期（令和5年10月～12月）の実績 （前年比）				令和6年1月～3月の見通し （今期比）			
	増加	不変	減少	D・I値	増加	不変	減少	D・I値
全業種	15.0	47.5	37.5	△22.5	0.0	47.5	52.5	△52.5
製造業	8.3	41.7	50.0	△41.7	0.0	41.7	58.3	△58.3
建設業	14.3	85.7	0.0	14.3	0.0	57.1	42.9	△42.9
卸売業	0.0	0.0	100.0	△100.0	0.0	33.3	66.7	△66.7
小売業	18.2	54.5	27.3	△9.1	0.0	36.4	63.6	△63.6
サービス業	28.6	28.6	42.9	△14.3	0.0	71.4	28.6	△28.6

※ 製造業は「生産高」、建設業は「工事完成高」を示す。



来期の売上見通し



業種別D I 《資金繰》

資金繰 (%)	今期 (令和5年10月～12月) の実績 (前年比)				令和6年1月～3月の見通し (今期比)			
	好転	不変	悪化	D I 値	好転	不変	悪化	D I 値
全業種	2.5	85.0	12.5	△ 10.0	0.0	86.8	13.2	△ 13.2
製造業	0.0	83.3	16.7	△ 16.7	0.0	83.3	16.7	△ 16.7
建設業	0.0	100.0	0.0	0.0	0.0	100.0	0.0	0.0
卸売業	0.0	33.3	66.7	△ 66.7	0.0	66.7	33.3	△ 33.3
小売業	0.0	100.0	0.0	0.0	0.0	81.8	18.2	△ 18.2
サービス業	14.3	71.4	14.3	0.0	0.0	100.0	0.0	0.0

※ 業種別D I 《売上高》及び業種別D I 《資金繰》の数値については、小数点以下第2位で四捨五入しているため、合計しても100にならない場合がある。

《業種別の動き》

① 製造業

生産高

前年比で「増加した」と答えた事業者の割合は8.3%、「減少した」と答えた事業者の割合は50.0%で、D・I値は△41.7となりました。来期の見通しでは、「増加する」と答えた事業者の割合が0.0%、「減少する」と答えた事業者の割合が58.3%、D・I値は△58.3となっており、今期の厳しい状況が来期も続く予測をしています。

資金繰

前年比で「好転した」と答えた事業者の割合は0.0%、「悪化した」と答えた事業者の割合は16.7%で、D・I値は△16.7となりました。来期の見通しでは、「好転する」と答えた事業者の割合が0.0%、「悪化する」と答えた事業者の割合が16.7%、D・I値は△16.7となっており、資金繰りについても厳しい状況が続くという見方をしています。

② 建設業

工事完成高

前年比で「増加した」と答えた事業者の割合は14.3%、「減少した」と答えた事業者の割合は0.0%で、D・I値は14.3となりました。来期の見通しでは、「増加する」と答えた事業者の割合が0.0%、「減少する」と答えた事業者の割合が42.9%、D・I値は△42.9となっており、今期は増加した工事完成高も、来期は減少に転じるという予測をしています。

資金繰

前年比で「好転した」と答えた事業者の割合は0.0%、「悪化した」と答えた事業者の割合は0.0%で、D・I値は0.0となりました。来期の見通しでは、「好転する」と答えた事業者の割合が0.0%、「悪化する」と答えた事業者の割合が0.0%、D・I値は0.0となっており、資金繰りについては変わらないという見方をしています。

③ 卸売業

売上高

前年比で「増加した」と答えた事業者の割合は0.0%、「減少した」と答えた事業者の割合は100.0%で、D・I値は△100.0となりました。来期の見通しでは、「増加する」と答えた事業者の割合が0.0%、「減少する」と答えた事業者の割合が66.7%、D・I値は△66.7となっており、今期の厳しい状況が来期も続く予測をしています。

資金繰

前年比で「好転した」と答えた事業者の割合は0.0%、「悪化した」と答えた事業者の割合は66.7%で、D・I値は△66.7となりました。来期の見通しでは、「好転する」と答えた事業者の割合が0.0%、「悪化する」と答えた事業者の割合が33.3%、D・I値は△33.3となっており、今期の厳しい資金繰りが来期も続く予測をしています。

④ 小売業

売上高

前年比で「増加した」と答えた事業者の割合は18.2%、「減少した」と答えた事業者の割合は27.3%で、D・I値は△9.1となりました。来期の見通しでは、「増加する」と答えた事業者の割合が0.0%、「減少する」と答えた事業者の割合が63.6%、D・I値は△63.6となっており、来期についても厳しい状況が続くと予測しています。

資金繰

前年比で「好転した」と答えた事業者の割合は0.0%、「悪化した」と答えた事業者の割合は0.0%で、D・I値は0.0となりました。来期の見通しでは、「好転する」と答えた事業者の割合が0.0%、「悪化する」と答えた事業者の割合が18.2%、D・I値は△18.2となっており、資金繰りについては悪化に転じると予測しています。

⑤ サービス業

売上高

前年比で「増加した」と答えた事業者の割合は16.7%、「減少した」と答えた事業者の割合は50.0%で、D・I値は△33.3となりました。来期の見通しでは、「増加する」と答えた事業者の割合が0.0%、「減少する」と答えた事業者の割合が16.7%、D・I値は△16.7となっており、来期についても厳しい状況が続くと予測しています。

資金繰

前年比で「好転した」と答えた事業者の割合は14.3%、「悪化した」と答えた事業者の割合は14.3%で、D・I値は0.0となりました。来期の見通しでは、「好転する」と答えた事業者の割合が0.0%、「悪化する」と答えた事業者の割合が0.0%、D・I値は0.0となっており、資金繰りについては変わらないという見方をしています。

《業種別 経営上の問題点》

	1 位	2 位	3 位	4 位	5 位
全業種	経費の増加 人材・人手不足	顧客需要停滞	設備老朽化等	取引先倒産等	後継者不在
製造業	経費の増加 人材・人手不足	顧客需要停滞	取引先倒産等 コロナの影響 設備老朽化等	—	—
建設業	人材・人手不足	経費の増加	取引先倒産等 資金調達困難 設備老朽化等	—	—
卸売業	設備老朽化等 人材・人手不足	経費の増加 コロナの影響 取引先倒産等 顧客需要停滞 資金調達困難 後継者不在	—	—	—
小売業	経費の増加	顧客需要停滞	人材・人手不足	取引先倒産等 後継者不在	取引条件悪化 コロナの影響 設備老朽化等 同業等との競合
サービス業	人材・人手不足	経費の増加 顧客需要停滞 設備老朽化等	取引先倒産等 後継者不在	取引条件悪化 コロナの影響 その他	—